

白河の翼

第 8 4 号

令和 7 年 8 月 3 1 日

発行人：支部長 鈴木 且雪

※題字：白川仁一先生

※印刷：さとう総合印刷

「支部の維持について」

西白河支部長 鈴木 且雪



今年度、福島県公立学校退職校長会西白河支部長を仰せつかりました。歴代の支部長のような力量も実行力もありますが、立場を任された身でありますので、支部の維持と活動の充実に、できる限り取り組んで参りたいと思います。

会員の皆様には、ご理解ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

県退職校長会と西白河支部は、昨年度、創立 60 周年を迎えました。支部では、創立 60 周年記念誌を発行することができました。改めまして、皆様のご協力に感謝申し上げます。ありがとうございました。

先日配布された県の会報「松風」に、福士会長のあいさつがありました。その中で、設立当時の結成趣意書について、記載されていました。退職校長会がどのような思いからつくられ、現在まで維持されてきたのかが理解できるものでした。先人の熱い思いで組織化することに意義を見いだしてつくられた退職校長会ですが、60 年が経過した今、多くの課題が出てきています。

今年の 6 月 10 日に行われた県退職校長会会津大会で田村支部からの体験発表がありました。「支部の現状と活性化に向けた課題」と題するもので、田村支部の抱える課題と、その解決に向けた取り組みについてがその内容でした。地域内の学校数減少に伴う会員数の変化、制度変更による悩み、役職定年と退職年齢の引き上げ、会への入会意思と入会の時期、活動年齢の高齢化など、これらの課題は、田村支部だけのものではなく、県内のどの支部でも、当然、

西白河支部においても、共通する課題であろうと思います。

組織がある限り、誰かがその存続や維持のための立場を担わなければなりません。今年度、長い間会の運営の中心的な立場でご尽力いただいた、栗林先生、大戸先生、菊地好博先生はじめ、多くの先生方が役員を引退されました。総会後の会の運営は、残った役員の皆さんや、新たに役員となっていたいただいた先生方で、四苦八苦しなながら何とか理事会や評議員会を開催し、7 月には、現職校長との交流会も実施することができました。更には、来年度令和 8 年 6 月には、西白河において県大会を行うことになっているので、実行委員会を組織し、実行委員会を開催し準備を進めています。仕事をしながら委員になっていただいている先生方もおり、忙しい中でのご協力に、感謝しかありません。

会津大会では、双葉支部からの「震災と事故後 14 年、双葉の今」と題しての発表もありました。双葉支部の本年度の会員数は 102 名で、その内県外避難は 14 名、県内避難は 74 名、双葉郡内への帰還者は 14 名ということです。散り散りになった会員をつなぐものは支部という組織です。組織がなければ、会員の交流もできず、会員という意識のよりどころも無いということになります。この発表から、退職校長会西白河支部があることの意義や意味を改めて再確認できた思いです。

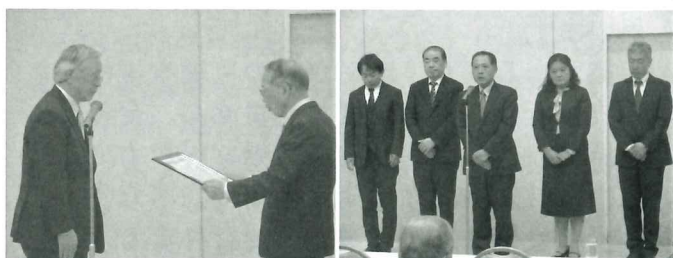
会を維持するためには、会員の皆様が本会の会員であるという思いを改めて確認し、会の必要感を持って活動に参加していただくことが不可欠だと思います。会員が一堂に会する総会には是非ご出席いただき、懇親会や現職校長との交流会等に参加し懇親を深める中で、支部活動をより活発にしていくなめのご意見等をお聞かせいただければ幸いです。

『令和7年度第61回支部総会』

4月12日（土）第61回支部総会が、東京第一ホテル新白河にて、46名の参加を得て盛大に開催されました。

議事に先立ち、賀詞の贈呈が行われ、出席された佐藤正敏先生が受け取り、代表あいさつをされました。今年度は他に高久真隆先生、會澤洋文先生が受章されています。

次に新会員5名が紹介され、代表して稲川竜寿先生が入会のあいさつを行いました。



続いて、福島県教育庁県南教育事務所長平山明裕様、福島県市町村教育委員会連絡協議会西白河支会理事長芳賀祐司様、西白河小中学校長連合協議会長菊池淳一様をご来賓にお迎えし、ごあいさつをいただきました。



議長選出では、慣例により矢吹方部稲林敬先生が議長の任を務めました。

議事では、令和6年度事業報告並びに決算報告が了承された後、今年度は役員改選の年に当たり、栗林正樹支部長等が退任され、鈴木且雪新支部長を中心とする執行部が選出され、鈴木支部長が代表あいさつを行いました。



その後、令和7年度事業計画と予算案について承認され議事を終了しました。

クラブの実践報告では、囲碁クラブとゴルフクラブより活動報告・勧誘がありました。

『創立60周年記念講演』

退職校長会西白河支部創立60周年を記念して、福島県教育庁県南教育事務所長平山明裕様に講演をいただきました。

平山所長には、ご自身が家庭に影響が出るほど部活動に熱心に打ち込んだことなど、私的な話題もお話いただき、その飾らないお人柄が聴く者を魅了しました。

さらには、県教委の重点施策、「学びの変革」を柱とする「第7次福島県総合教育計画」についてや、県南教育事務所の「学校教育課全体構想」について、具体例をあげながらわかりやすくご説明いただきました。



『懇親会』

総会に引き続き、会場を移し、来賓の皆様を含め43名参加のもと懇親会が開催されました。栗林正樹顧問による乾杯の発声でスタートし、和やかな雰囲気の中でお互い近況報告を行ったり、昔話に花を咲かせたりして懇親を深めることができました。



『新会員の先生方から』

「ご縁に感謝、のびのびやっています」

稲川 竜寿



初めて勤める埴町、もったいぶった名前の特例任用校長としてまでも中学校ではなく小学校勤務です。ですが、この年になり、多くの人たちとの出会い、新たなご縁が結べることの喜び、ありがたい限りです。

校舎は自然に囲まれ、埴町はツツジや蓮、ダリアなどの四季折々の草花や昆虫、生き物に恵まれています。校舎の脇にはアユ釣りで有名な久慈川が流れるなど、子どもの成長にとっても良い環境にあります。この豊かな自然の中で子どもたちは元気いっぱいです。

私はといえば、日々、大切な教職員をどう生かすか、どういうベクトルをもたせるか、これまでの経験値をふりかえりながら老細胞を活性化させて取り組んでいます。意外かもしれませんが、これが意外と楽しいのです。全職員でブログを作成したり、年度途中からチーム担任制を導入したりなど、今までできなかったことにもいろいろと挑戦しています。児童も教職員も楽しい学校にしたいです。

「1学期が過ぎて思うこと」

大倉 幸子



3月に羽太小を役職定年し、4月から再び特例任用校長として羽太小に勤務しています。61歳の校長です。「若い世代の先生方との意識のずれ・ギャップが校務に支障を来たしてはいないだろうか…」それが日々の心配の種でもあります。

かつて初任地から異動する時、当時の校長先生が、「親の立場で異動を考えるから心配するな。」と言ってくれました。自分は今、親の立場で一人一人の教職員を支えているか…。個人情報やプライバシー等を都合よく言い訳にしていないか…。

先日校内で具合が悪くなった職員を病院に運んだ時、ふとその職員の親御さんのことを考えました。親御さんはきっと、我が子がいい子供達や地域の方々、いい職場の上司や同僚に囲まれながら、思う存分活躍してほしいと願っているに違いない。その活躍できる環境をつくるのが、この校長の責任なのだと思えて自覚しました。

若い世代の感覚・感性に寄り添いながら、令和の学校経営を楽しく進めていきます。

「これからも感謝しながら」

亀田 征利



この度、退職校長会に入会させていただきました。長年教育の現場に携わり、校長職としての務めを終えた今、同じ道を歩んできた方々と再びつながれることを心よりうれしく思っております。

現在は、菌ちゃん農法での野菜づくりと鶏の飼育に励む日々を送っています。種をまき芽が出て育ち、やがて実を結ぶという自然の営みに、あらためて感動する毎日です。飼っている鶏はまだ卵を産んでいませんが、日ごとに成長していく様子を見守る中で、命の力強さや尊さを感じています。野菜作りは理想ばかりではなく実際は雑草との戦いです。草を刈る作業も大切な時間です。

現役時代には見過ごしていた小さな気づきが、今の生活の中で豊かな学びとなっています。これからも自然や地域とのつながりを大切に、自分らしく「人・物・自然」に感謝しながら過ごしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

「終わりは始まりの合図」

土屋 好二



この度、退職校長会に入会致しました。どうぞよろしくお願い致します。38年間の教職人生のうち、8年間に校長職として微力ながら務めることができました。最後は西郷一中での勤務で良かったと実感しております。これもひとえに、先輩の校長先生方や職場の同僚の皆さん、地域や保護者の方々、子ども達に恵まれたお陰だと感謝しています。先日、教え子達から退職祝いの会を開いていただいたことも嬉しかったです。

さて、現職の時から、終業式や卒業式等節目の時に、「終わりは始まりの合図」と述べたことがあります。何事にも終わりは必ずあり、同時に新たな一步を踏み出すことが大切であるとの意味ですが、退職した今、この言葉を自分にも言い聞かせている毎日です。

現在、二つの中学校で講師として勤務しています。まずは健康第一、今後も人とのつながりを大切に、様々なことにも挑戦していきたいと決意を新たにしているところです。

「笑顔のために」

小野 聡



3 月に役職定年となり、4 月 1 日より、特例任用校長として白河南中学校に赴任しました。微力ではありますが、教育界にもう少し貢献できればと考えています。

今年度の大河ドラマ「べらぼう」に登場する松平定信が白河藩主として参勤交代した際には、本校からほど近い、「境の明神」を参詣し「白坂」の地に宿泊したそうです。奥州街道の「石阿弥陀の一里塚」も本校近くに残っており、また、戊辰戦争を語る上でも欠かせない、歴史の香り高い地域です。

このような地に建設された本校は、木材がふんだんに使われており、ぬくもりが感じられ、ひさしの長い通路、アーチ型校舎、屋内プールもあるなど、18 年目を迎えたとは思えない斬新なデザインの校舎です。

現在、150 名の生徒が「なりたい自分」を目指し、学習、部活動等に励んでいますので、一人一人の夢や希望の実現、そして、笑顔のために支援していきたいと思っています。

「新たな出会いの中で」

西牧 泰彦



今年 4 月 1 日に、特例任用校長として白河市立みさか小学校に着任いたしました。明るく素直で、のびのびしている 307 名の子ども達から元気をもらい、平均年齢 38.9 歳、ベテランと

若手のバランスのとれた教職員組織と実践意欲に満ちた先生方に支えられて、充実した毎日を送っています。休み時間になると、ふらっと校長室を訪ねてきては、自分達で考えたゲームや最近ハマっているとするアニメの話で盛り上がる子ども達。その会話の中から聞こえてくる趣味や習い事は、英会話、ピアノ、ヒップホップダンス、スケートボード、サッカー、バスケなど、伝統的なものから社会の変化を反映した新しいものまで、個々の興味や目的に合わせて選択できる環境が、子ども達の周りにはたくさんあることを教えてくれています。日々の子ども達との何気ない会話の中に、「多様性を包摂する学校、いかにあるべきか」の応えをつかむヒントが隠されているように感じています。

「感謝の心で」

小川 洋太郎



この 3 月、白河市立みさか小学校を最後に退職し、退職校長会に入会させていただくこととなりました。

私は福島市の出身であります。が、縁あって白河市に居を構え、教員生活の多くを西白河地区過ごさせていただきました。講師として 1 校、教諭として 2 校、校長として 3 校の勤務ではありましたが、諸先輩の先生方には、その都度、温かなご指導ご支援をいただき深く感謝しております。

4 月からは学力向上支援アドバイザーとして、棚倉町の小学校 4 校に勤務し、算数科の授業支援を中心に学力向上に関わる業務にあたっております。微力ではありますが、先生方と授業について語り合い、子どもたちと向き合う時間をいただいていることに感謝しながら、しっかりと務めていきたいと考えております。退職校長会の皆様方には、今後ともたいへんお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

『福島県公立退職校長会会津大会』

角田 彰三郎

6 月 10 日 (火) 県退職校長会会津大会が、南会津町御蔵入交流館において実施されました。本支部からは鈴木支部長をはじめ 4 名が参加し、総勢 178 名が集いました。



大会では、これまでになかった大会テーマ「共生と持続可能な社会の実現に向けて貢献するために」を設定し、テーマに沿った講演会や、各支部からの発表、大会宣言が行われました。

最後に、鈴木支部長から次期開催地区を代表して、県南での再会を楽しみに、これから準備していくとの話がありました。

《ご冥福をお祈り申し上げます》

仁科 道夫 先生	令和 7 年 4 月 2 日ご逝去
大楽 睦彦 先生	令和 7 年 5 月 9 日ご逝去
大塚 克正 先生	令和 7 年 6 月 28 日ご逝去
佐川 文夫 先生	令和 7 年 8 月 4 日ご逝去

《編集後記》

今年度から年 2 回になった「白河の関守」の発行、その分内容充実努めます。広報係